

キジハタ飼育試験

勝俣亜生・仲村伸次

キジハタは1 kg余りまで成長する小型のハタ類であるが、非常に高価で取り引きされるため、岡山県、香川県愛媛県など主に瀬戸内海沿岸の各県や日裁協でその放流や養殖のための技術開発が行われてきた。

ただ、成長が遅く商品サイズに達するまでに2～3年かかるため、沖縄の高水温を利用して養成期間を短縮する試験が企画された。

1. 方法

1995年11月14日に高知県にある(株)マリンテクノロジー研究所より平均11.8g、89.9mmの種苗160尾を輸送した。輸送は同研究所に依頼して、クエと同様な方法で行った。ただ、那覇空港では開封せず、すべて梱包したまま沖縄県栽培漁業センターまで運び、22:00に開封した。

現地の水温は20℃で、到着時のビニール内の水温は20.4℃、当栽培漁業センターの水温は24.0℃であった。

輸送による斃死はなかった。この種苗もクエ同様マリンテクノロジー研究所で生産したものである。餌はモイスト(エビ・アジ・カニ 5:ヒラメ用モイスト飼料

5 + ビタミンなど)であった。

栽培漁業センターでは10t水槽に収容しマダイ用ヘレットのみを12月中旬まで朝夕2回、それ以降夕方1回飽食するまで投与した。池には隠れ場として塩ビパイプを数本入れた。

体重と全長は総尾数の20から30%を取り上げて測定し、平均を求めた。

飼育開始から今年度の試験終了まで池替えはしなかったが、1996年2月7日の測定時に全数を取り上げて尾数を確認した際に、簡単な掃除をした。

2. 結果

飼育結果を表1に示す。飼育水温は11月が23～24℃、12月下旬から3月中旬まで20℃前後でその後徐々に上昇した。最低は2月10日の18.5℃であった。19.5℃以下の日は4日しかなかった。

クエと同じく輸送後1ヶ月に約20%の斃死があったが、12月中旬以降ほとんど死ななくなった。冬季にも顕著な成長の停滞はみられず比較的順調な増重が得られた。

表1 平成8年度 キジハタ飼育結果

測定月日	体重(g)	全長(mm)	飼育尾数	生残率 (%)	餌料効率 (%)	投餌量 (g)	投餌 日数
	(最大、最小)	(最大、最小)					
1995年11月14日	11.8 (28.7、6.5)	89.9 (127.8、74.0)	160				
12月14日	26.4 (50.4、11.9)	113.0 (149.0、89.9)	130	81.3	148.2	1.042	21
1996年 2月 7日	42.1 (97、 14)	130.4 (178.0、92.9)	128	98.5	91.7	2.133	35
4月 4日	70.3 (178、 32)	155.8 (198.7 128.4)	128	100	118.1	3.057	56